

石川協会

激震地の全会員の無事を確認

歯科は診療再開に断水の壁

石川協会は令和6年能登半島地震の発災当日から会員の安否確認等を行い、震度6以上の地域については1月16日までに108人全員の無事を確認した。一方、診療再開を確認できたのは17日現在で38人にとどまり、特に歯科では断水などの影響で5人のみの再開となっている。同協会は11日に中能登町の会員6人を、22日に七尾市の会員7人を訪問し、お見舞金と協会の災害関連情報を手渡した。

歯科は診療再開、歯科は休診続く

中能登町

中能登町の歯科会員3人の医療機関は診療を再開してはいた。大震災後の混乱の中ではあったが、このうち1人の会員と直接面談でき、避難所での診療の取り扱いなどの質問に答えた。

開いていた。大震災後の混乱の中ではあったが、このうち1人の会員と直接面談でき、避難所での診療の取り扱いなどの質問に答えた。

断水続くも一部再開、建物被害甚大

七尾市

庭ゴミの収集ができていなかった(22日)る解消。瓦屋根が落下した家屋が散見され、途中、2カ所所で道路が陥没していた。

七尾市の会員医療機関では、建物に痛々しい震災被害が見られた。1月22日現在も断水が続いており、全域でトイレも使用できない状況が続いていた。駐車場や医院周辺道路が陥没・隆起していたり、液化化でクリニクの建物全体が傾いていたりしたほか、一見しただけでは分からない配管の損傷、修理が必要な箇所があるとのことだった。こうした中でも、診療を再開しており、待合室が患者さんでいっぱいになり、クリニックも見られた。

七尾市街地は営業を再開している飲食店等もあり、一足すると日常に戻りつつあるようにも映る。しかし少し細い道に入ると急に景色が変わり、倒壊した住宅が道をさき、危険

住江前会長と被災協会など訪問

阪神・淡路大震災から憲勇前会長とともに石川29年目の1月17日、住江協会などを訪問した。



兵庫協会と合流して石川協会・平田米里副会長(右)の診療所を訪ね、震災の状況を聞いた

珠洲市から協会事務所を訪れていた会員とも懇談し、同市の被災状況や診療事情、被災者に薬の相談など親身に寄り添った活動を続けてきたことや、当面の医療経営に関する相談、今後の診療再開に向けた思いなどを聴き取った。

また、金沢市の城北病院に設置された石川県民医連の災害対策本部を訪問。大野健次院長らと面談し、被災者救援、被災診療所との連絡や医師派遣などに苦慮する実態を聴き取った。

同病院は震災発生直後から、他の自治体から搬送される被災者への治療に追われ、300床のベッドが常にほぼ満床になっている。日常診療に

おり、全域でトイレも使用できない状況が続いていた。駐車場や医院周辺道路が陥没・隆起していたり、液化化でクリニクの建物全体が傾いていたりしたほか、一見しただけでは分からない配管の損傷、修理が必要な箇所があるとのことだった。こうした中でも、診療を再開しており、待合室が患者さんでいっぱいになり、クリニックも見られた。

加え、被災者・避難者への医療対応が求められ、医師・職員総出で24時間体制で取り組んでいるという。対策本部には全国からの激励の寄せ書きが飾られていた。

現政権下での病床削減、病院統廃合が強行されてきた政治運営が天災をさらに複雑にしているとの声も上がった。

協会訪問前の15日、私は一部復旧したばかりのJR七尾線羽咋駅の周辺を2時間かけて歩いた。羽咋市は震源から50キロ程度離れているものの、家屋等には急危険度判定で「危険」と判定された赤い紙があらわに貼られていた。電柱が傾いて連なり、液状化現象で土砂が吹き上げられ

ひび割れた道を歩いて子どもたちが学校へと向かっていった。

七尾線は22日に七尾駅まで復旧路線が延び、住民らから歓迎の声が上がっている。七尾駅から和倉温泉駅までの区間は土砂災害などの被害がひどいため、当面は朝夕、代替バスが運行される。その先の「のと鉄道七尾線」は目途が立っていない。

今回の能登地震は、建物の倒壊、大津波、大規模土砂崩落、大火災、大規模地盤隆起などあらゆる災害を含む大変な事態だ。保団連は石川協会と密接に連携を取りながら復旧復興に向けて取り組んでいく。

(保団連新聞部長 杉山正隆)

連載 第1回

能登半島地震

村山嘉昭

最大震度7を観測した「令和6年能登半島地震」を取材するために私が石川県に到着したのは1月5日の早朝だった。金沢市近郊は日常を取り戻していたが、能登半島へ近づくとつれて土砂崩れや地割れなどによって通行止めの道路が増えていき、倒壊した家屋が目立つようになっていった。

今回の地震では上下水道や道路、電力や通信などといったインフラ設備が広域で被災。断水は能登半島全域に及び、発災から1か月経っても復旧の見通しすら立っていない地域が数多く存在する。そのため全国各地の自治体が給水車を派遣し、発災直後から住民への給水支援を続けている。

能登町役場近くの給水所では京都市上下水道局の若い職員が高齢女性に付き添い、台車を支えながら自宅まで水を届けていた。周辺の路上には落下して割れた瓦などが散乱し、歩道にはいくつもの段差やひび割れができていた。車輪が小さい台車ではすぐにつかえてしまう。職員は「女性の足元がおぼつかず、ほおっておけなかった」と話した。力のない高齢者にとっては数百メートルの距離でも水を汲みに行くのは大変な労力を伴う。女性は「やっとの思いで水を貰いに来た」という。職員の行動は現場に余裕がないとできないことだが、給水所の近くであっても安全な水が手に入らずに困っている人がいるかもしれないと心に留めておきたい。



2024年1月21日、能登町宇出津新で撮影

(むらやま・よしあき) 写真家。1971年、横浜市生まれ。徳島市在住。日本写真家協会会員。

判定の赤い紙が貼られた、壁の崩れた家々が並んでいた。局地的に被害の大きな場所があるようだ。

への要請を実施。自治体単独の医療費助成について受給者証を紛失して提示できなくても助成を適用するよう求め、石川県は23日付けで市町村に対し現物給付の対象にできる旨を通知した。

協会の自治体要請が実現

5日、19日には石川県

能登半島地震救援募金にご協力を

【ゆうちょ口座振替】
記号番号：0016000140346
加入者名：全国保険医団体連合会
【他銀行から振込】
銀行・店名：ゆうちょ銀行 〇一九支店
口座番号：0140346、種別：当座
名義：ゼンコクホケンイダントイレングウカイ



※領収書は二次元コードから。
※寄付金等の控除対象になりませんが、「募金特別会費」として税務上の必要経費になります。